

所属研究団体日本遺伝学会 令和5年度 事業計画

事業計画の概要

本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及をはかるため、下記諸事業を計画する。

1. 学会誌Genes & Genetic Systemsの発行(隔月1回)
 - (1) Vol 98 No. 1~No. 6を発行する。
 - (2) すぐれた論文を発表した著者にGGS PRIZE 2023を授与する。
2. 年次大会の開催(第95回大会をくまもと県民交流館パレアにて開催)
 - (1) 学会員を対象とした一般口頭発表および学生会員を対象としたポスター発表を開催する。
 - (2) 海外(主にオーストラリア)より研究者を招聘し国際シンポジウムを開催する。
 - (3) 公募による特定のテーマでのワークショップを開催する。
 - (4) 遺伝学会版最終講義と題したワークショップを開催する。
 - (5) 総会を大会最終日に行う。
 - (6) 大会で発表する学生の大会参加旅費の一部を援助する。
 - (7) 男女共同参画推進の一環として大会へ参加するための支援を行う。
 - (8) 第94回大会Best Paper賞受賞者によるプレナリーワークショップを開催する。
 - (9) 一般口頭発表者から優れた成果を発表した者をBest Paper賞候補者として選考する。
 - (10) ポスター発表者(学部学生、修士課程の学生)からすぐれた発表を行った者にポスター賞(Young Best Poster賞)を授与する。
 - (11) 台湾(Academia Sinica)及びオーストラレーシアから学生若干名を招聘し、大会での口頭発表や議論を通じて国際交流をはかる。また、大会後の日本人研究者への研究室訪問の支援を行う。
 - (12) 市民公開講座を最終日に開催する。
3. 春季分科会
会員、非会員によるポスター発表を開催する。
4. 木原賞・奨励賞の授与
 - (1) 遺伝学の分野で特に顕著な業績をあげた会員に木原賞を授与する。
 - (2) 遺伝学の特定の分野で優れた研究を活発に行い、将来の成果が期待される会員に奨励賞を授与する。
5. 遺伝学談話会の開催
各地区の会員の交流を目的に遺伝学談話会を開催する。第21回は開催地未定。
6. 中学・高等学校などへのオンライン講師派遣事業
遺伝学に関する講演、授業などを必要とする中学・高等学校や、最新の遺伝学の講演会、講習を必要とする中学・高等学校の教師の集まりを対象とし、目的に応じたその分野の専門の学会員がzoomなどのオンラインで講演や授業を行う。
7. 委員会の活動等
 - (1) 遺伝学教育用語検討委員会
引き続き遺伝学教育用語を検討。

別添資料 I

- (2) 男女共同参画推進委員会
本学会は男女共同参画推進学協会連絡会に加盟している。
年次大会中に大会へ参加するための支援を行う、また、ランチョンセミナーを開催する。
- (3) 遺伝学普及・教育担当委員会
オンライン講師派遣事業を行う。
- (4) 将来計画委員会
国際遺伝学会に対する日本遺伝学会の貢献について検討する。
- (5) 生物科学学会連合
本学会は「生物科学」の健全な発展のために各学協会と協力し活動を行っている。
- (6) 自然史学会連合
本学会は自然史科学の研究・教育の振興を目的として、動物学・植物学・地学など主に基礎的な野外研究に関連する学会と協力して、幅広い活動を進めている。
- (7) 編集委員会
2020年と2021年に予定していたアジア・オセアニア諸国の遺伝学者を、2023年度の年会（熊本大会）に招聘し国際シンポジウムを開催するとともに、GGGのeditorに就任させる。
- (8) 国際連携幹事を新たに設け、海外（特にオーストラレーシア遺伝学会）との交流・連携を強化する。
- (9) 遺伝学若手の会の活動を強化し、若手の勧誘及び遺伝学啓蒙を推進する。